

第1部

計画に関する 基本的事項

第1部 計画に関する基本的事項

第1編 計画の基本的な考え方

第1章 計画策定の趣旨

本県では、すべての県民が等しく適切な医療を受けられるよう、地域の特性に応じた包括的な保健医療提供体制の確立を目指して、昭和62年（1987年）10月に「山口県医療計画」を策定しました。

その後、少子・高齢化の進行による人口・世帯構造の変化や、生活習慣病、認知症の増加などの疾病構造の変化、また、医療技術の進歩や情報化の進展等、保健・医療を取り巻く状況の変化に対応しながら、必要に応じ、計画の見直しを行い、県内の保健医療関係機関・団体・市町等の協力のもとに、保健医療提供体制の整備・充実に努めてきたところであります。

こうした中、近年では、医師をはじめとする医療従事者の確保や、団塊の世代が75歳以上となる平成37年（2025年）を見据えた効率的で質の高い医療提供体制の構築等が大きな課題となっています。また、地震や大雨など、全国的に大規模な災害が発生する中、災害時の医療の確保体制の強化等も課題のひとつです。

こうした課題に的確に対応するとともに、将来を見据え、より県民のニーズに即した良質かつ適切な保健・医療を提供できる体制の整備を計画的に推進するため、第7次の「山口県保健医療計画」を策定します。

第2章 計画の性格

本計画は、次に掲げる性格を有するものです。

- 1 医療法第30条の4第1項の規定に基づく医療計画であり、本県の保健医療施策を総合的に推進するための基本指針となるものです。
- 2 次に掲げる保健・医療・福祉に関連する各種の計画等と整合性を保ちながら、連携して取組を推進します。
 - 健康やまぐち21計画
 - やまぐち高齢者プラン
 - 山口県がん対策推進計画
 - やまぐち障害者いきいきプラン
 - やまぐち歯・口腔の健康づくり推進計画 等
- 3 市町に対しては、県との協働のもと、保健医療行政の計画的な推進を図るための指針となるものです。

- 4 保健医療関係機関・団体に対しては、本計画の示す方向や対策について理解と協力を得るとともに、その活動の指針となることを期待するものです。
- 5 県民に対しては、本県の医療提供体制の実情を理解し、医療を受けるための主体的な行動の指針となることを期待するものです。

第3章 計画の期間

- この計画の期間は、平成30年度（2018年度）から平成35年度（2023年度）までの6年間とします。
- 社会状況や保健医療をめぐる環境の変化、国の医療制度改革等を踏まえ、必要があるときは、計画を見直すこととします。
- 在宅医療その他必要な事項については、3年ごとに改定される介護保険事業支援計画との整合性の確保を図るため、3年ごとに調査、分析及び評価を行い、必要があるときは計画を見直すこととします。

第4章 基本理念

1 計画の基本目標

『生涯を通じて健康で安心して暮らせる地域保健医療体制の確立』

2 目標実現のための視点

基本理念を実現するため、次の視点に立って、積極的に施策を推進します。

◇ 県民の安心・安全を支える保健医療提供体制の構築

- ・ 5疾病・5事業及び在宅医療の医療提供体制を構築し、関係者の連携を促進します。
- ・ 高齢化の進行に伴う医療需要の増加を踏まえ、医療機能の分化・連携による、効率的で質の高い医療提供体制の構築を目指します。
- ・ 本県の実情を踏まえた保健・医療・福祉全般にわたる取組を推進します。
- ・ 医療の安全性・信頼性の向上と県民に対する医療情報の提供に努めます。

◇ 地域の保健医療を担う人材の確保と資質の向上

- ・ 医師、看護師をはじめとする保健医療従事者の養成・確保に向けた取組を推進します。

第5章 計画の推進方法

この計画の推進に当たっては、県民の理解と協力のもとに、県、市町、保健・医療・福祉の関係団体が相互に協力・連携して総合的に推進します。

1 計画の推進体制

(1) 全県単位での推進

「山口県医療審議会」の審議を通じて、全県レベルで、計画の進捗状況の把握や計画の推進に向けた協議・検討を行います。

(2) 各保健医療圏での推進

地域の特性を踏まえた計画の推進を図るため、各圏域に設けている「地域医療対策協議会」及び「地域医療構想調整会議」において、計画の進捗状況の把握や計画の推進に向けた協議・検討を行います。

(3) 市町との連携

多様化する地域住民のニーズにきめ細かく対応していくため、住民に身近で、保健サービス等の主たる実施主体である市町との密接な連携を図り、各健康福祉センター及び下関市立下関保健所を核に、市町に対する専門的・技術的支援や広域的な調整を行います。

(4) 保健医療関係団体等との連携

地域の保健・医療・福祉の推進に大きな役割を果たしている医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等をはじめとする保健・医療・福祉関係団体と、より一層の連携及び協力体制の確立を図ります。

2 PDCAサイクルを活用した計画の推進

疾病・事業ごとに効率的・効果的な医療体制を構築するため、各指標を用いて現状の把握を行い、さらに、把握した現状を基に課題を抽出した上で、課題を解決するに当たっての数値目標を設定し、その目標を達成するための施策等を策定します。

また、医療審議会において1年毎に施策等の進捗状況等の報告を行うとともに、これを評価し、必要に応じて施策等を見直し、これらの情報を公開します。

計画の進捗状況や計画に関する地域医療の現状等については、県のホームページを活用し、県民に対し、適切に情報提供するよう努めます。

第6章 医療提供体制の充実と地域医療連携の推進

1 医療提供体制

限られた医療資源の中で適切な保健医療サービスを提供するため、医療機関それぞれが「一次医療」、「二次医療」、「三次医療」の役割を分担し、その病態に応じ、効率的で質の高い医療が提供できる体制を整備します。

【一次医療・二次医療・三次医療の定義等】

(1) 一次医療

- 診療所を中心として、日常的な疾病管理や健康管理、緊急時の処置、他の適切な医師への紹介等を行う「プライマリ・ケア」を提供する医療であり、「かかりつけ医」及び「かかりつけ歯科医」等が主な役割を担います。
- 二次医療や三次医療を担う医療機関と機能分担や連携をし、在宅医療サービスの提供等、高齢化に伴う多様な医療ニーズにも対応します。

(2) 二次医療

- 主として、病院における入院医療であり、比較的専門性の高い外来医療や、各二次保健医療圏内で治療が可能な一般的な疾病に対する入院医療等が提供されます。
- 一次医療の中心となるかかりつけ医などの診療所を支援する役割を担う地域医療支援病院は、県内では14病院が承認されています。

表 地域医療支援病院

医療圏名	医療機関名	承認日
岩 国	岩国市医療センター医師会病院	H10. 12. 21
	岩国医療センター	H20. 4. 30
柳 井	周東総合病院	H28. 2. 26
周 南	徳山医師会病院	H13. 12. 3
	徳山中央病院	H24. 11. 30
山 口・防 府	済生会山口総合病院	H23. 3. 23
	県立総合医療センター	H26. 8. 29
	山口赤十字病院	H28. 9. 29
宇部・小野田	山口労災病院	H21. 4. 30
	宇部興産中央病院	H27. 8. 27
下 関	済生会下関総合病院	H23. 11. 30
	関門医療センター	H26. 2. 14
	下関医療センター	H26. 2. 14
	下関市立市民病院	H29. 2. 16
計	14病院	

地域医療支援病院の主な承認要件（平成 29 年 11 月末現在）

病床数	200 床以上
開設者	国、都道府県、市町、公的医療機関、特別医療法人、医療法人、民法法人、学校法人、社会福祉法人、独立行政法人労働者健康福祉機構等
機能	① 他の医療機関から紹介された患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む） ② 施設、設備、高額医療機器等の共同利用の実施 ③ 救急医療の提供 ④ 地域の医療従事者の資質の向上のための研修の実施
紹介率等	次のいずれか一つを満たすこと。 ① 紹介率が 80%を上回っていること ② 紹介率が 65%を上回りかつ逆紹介率が 40%を上回ること ③ 紹介率が 50%を上回りかつ逆紹介率が 70%を上回ること
必要な設備	①集中治療室 ②化学、細菌及び病理の検査施設 ③病理解剖室 ④研究室 ⑤講義室 ⑥図書室 ⑦救急用又は患者輸送用自動車 ⑧医薬品情報管理室

(3) 三次医療

- 特定機能病院（注）等において、二次保健医療圏の枠を越え、先進技術等により提供される高度専門医療です。
- 山口大学医学部附属病院は、本県において唯一の特定機能病院であり、先進的医療の中核的役割を担っています。

山口大学医学部附属病院において実施されている先進医療例

- ・ 角膜ジストロフィの遺伝子解析
- ・ C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法
C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変（Child-Pugh 分類による点数が七点以上のものであって、従来の治療法（肝移植術を除く。）ではその治療に係る効果が認められないものに限る。）
- ・ 急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微少残存病変（MDR）量の測定

（注）高度の医療の提供や、高度の医療技術の開発及び評価、高度の医療に関する研修を行う能力等を有する病院。

2 地域医療連携体制の構築

- 高齢化の進行による疾病構造の変化により、必要とされる医療の内容は「病院完結型」から、地域全体で治し、支える「地域完結型」に変わることが求められています。
- 本計画は医療連携体制構築に向けた基礎資料となるものであり、今後、この計画に基づき、行政や医療機関等が相互に協力・連携し、地域における医療連携体制の構築を進めることが必要です。

医療計画

- 地域に必要な医療機能を担う
医療機関の明確化
- 連携イメージの提示



地域の実情に応じた自主的な医療連携体制の構築

3 施策

(1) 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」制度の普及啓発

地域における「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」制度の充実を図るため、かかりつけ医等を持つことの必要性や意義について、医師会・歯科医師会等の協力を得て、県民への普及啓発に努めます。

(2) 地域の各病院の医療機能の確保・充実

地域において、比較的専門性の高い外来医療や、入院医療等を確保するため、地域医療支援病院を始めとした二次医療機関等の医療機能の充実を図ります。

(3) 疾病ごとの地域連携体制の確保

地域の医療機関がそれぞれの医療機能に応じ、連携を図るための手法として、地域の実情に応じ、疾病ごとに導入されている「地域連携クリティカルパス」について、幅広い活用が図られるよう取り組みます。

(4) 高度専門医療の確保・充実

- ・ 救命救急センター、周産期母子医療センター等における高度医療や、エイズ治療等の政策的高度医療など、高度専門医療の確保を推進します。
- ・ 高度な集学的がん診療機能や特殊感染症に対応する機能等、二次医療機関だけでは対応が困難な疾病に対する医療については、広域的な視点での医療機能連携を図るとともに、三次医療機関での機能確保を推進します。

(5) 高度専門医療に係る二次医療機関と三次医療機関の連携強化

特定機能病院である山口大学医学部附属病院を始めとする三次医療機関と、地域の中核病院その他の二次医療機関との間で、遠隔画像・病理診断などの実施等による連携を推進します。

第2編 地域の現状

第1章 地勢等

本県は、本州の西端に位置し、面積は約 6,112k m²です。三方が海に開け、海岸線の総延長はおよそ 1,500 kmに及んでおり、沖合には約 240 の島々が点在し、21 の有人離島があります。

県中央部を東西に中国山地が走り、大きく、瀬戸内海沿岸地域、内陸山間地域、日本海沿岸地域の3つの地域に分けられますが、気候は、地形や海からの距離等によって多少異なるものの、おおむね温暖です。

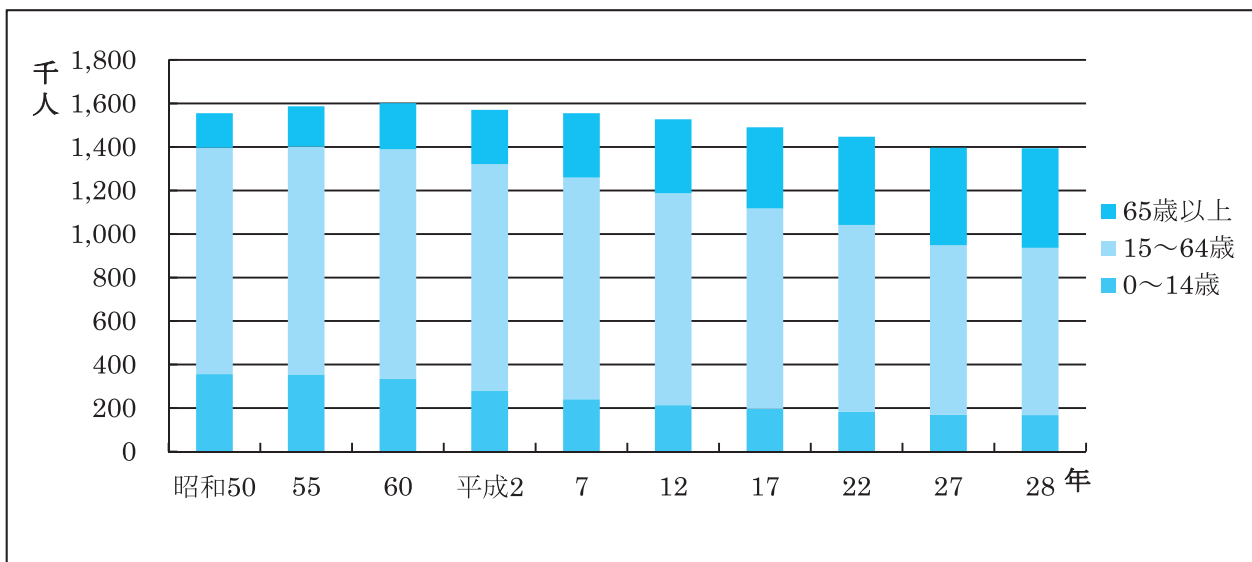
小規模連山、中小河川、盆地、海岸段丘等が入り組んだ地形となっており、道路網の整備もあって、中小都市が散在する独自の都市構造となっています。

第2章 人口構造

1 総人口

本県の総人口は、昭和 60 年（1985 年）には 160 万人に達しましたが、その後は減少傾向にあります。平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在の推計総人口は 1,393,904 人であり、平成 27 年（2015 年）の国勢調査に比べ、10,825 人（0.8%）の減少となっています。

図1 人口の推移



資料：平成 27 年までは国勢調査、平成 28 年は平成 28 年 10 月 1 日現在の推計人口（山口県）

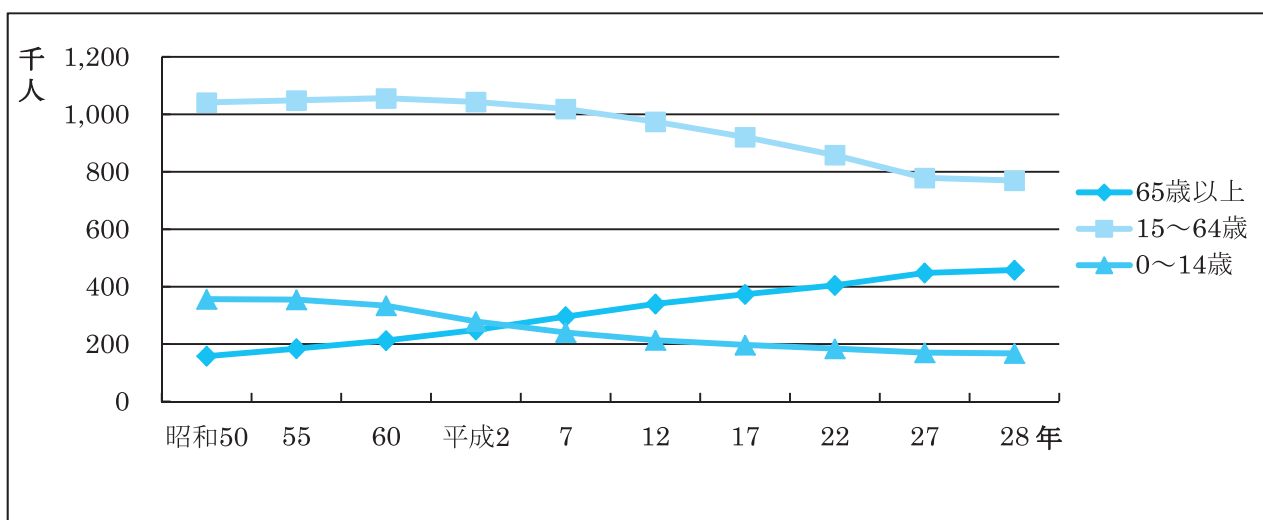
2 年齢区分別人口

本県の平成28年（2016年）10月1日現在の推計総人口を年齢3区分でみると、「0～14歳」が167,352人（12.0%）と平成27年（2015年）と比べ2,670人減少、「15歳～64歳」が768,951人（55.2%）で9,479人減少する一方、「65歳以上」は457,601人（32.8%）で9,739人の増加となっています。

全国における年齢3区分別の人口割合は、それぞれ12.6%、60.7%及び26.6%ですので、本県では全国に比べ少子・高齢化が進んでいます。

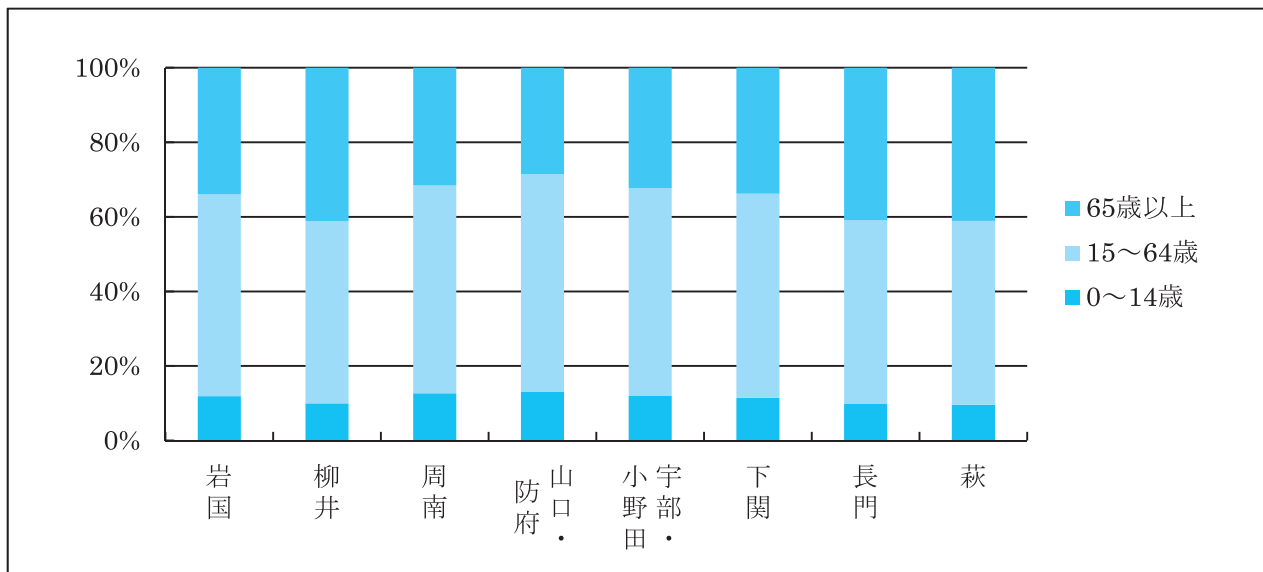
なお、保健医療圏別では、柳井、長門及び萩医療圏において、少子化・高齢化の傾向が著しい状況にあります。

図2 年齢3区分別人口の推移



資料：平成27年までは国勢調査、平成28年は平成28年10月1日現在の推計人口（山口県）

図3 圏域別年齢3区分による総人口に対する構成比



資料：平成28年10月1日現在の推計人口（山口県）

第3章 人口動態

1 出生及び死亡

平成28年(2016年)の出生率(人口千対)は7.1であり、全国平均の7.8に比べ0.7ポイント低くなっています。

死亡率(人口千対)は13.3であり、全国平均の10.5に比べ2.8ポイント高くなっています。

これにより、自然増加率は、平成4年(1992年)以降マイナスとなっており、平成28年(2016年)はマイナス6.2となっています。

また、乳児死亡率、新生児死亡率、死産率及び周産期死亡率は中長期的に減少傾向にあり、平成28年(2016年)は、新生児死亡率及び死産率が全国平均を下回っています。

表1 人口動態

年次	自然増加		出生		死亡		乳児死亡		新生児死亡		死産		周産期死亡	
	件数	増加率	件数	出生率	件数	死亡率	件数	死亡率	件数	死亡率	件数	死産率	件数	死亡率
S30	15,328	9.5 (11.6)	28,756	17.9 (19.4)	13,428	8.3 (7.8)	1,041	36.2 (39.8)	570	19.4 (22.3)	3,402	105.8 (95.8)	1,231	42.8 (43.9)
S40	11,537	7.5 (11.4)	24,537	15.9 (18.6)	13,000	8.4 (7.1)	482	19.6 (18.5)	321	12.3 (11.7)	2,629	96.8 (81.4)	765	31.2 (30.1)
S50	12,019	7.8 (10.8)	23,956	15.5 (17.1)	11,937	7.7 (6.3)	259	10.8 (10.0)	175	7.3 (6.8)	1,439	56.7 (50.8)	380	15.9 (16.0)
S60	5,396	3.4 (5.6)	17,674	11.1 (11.9)	12,278	7.7 (6.3)	115	6.5 (5.5)	80	4.5 (3.4)	832	45.0 (46.0)	258	14.4 (15.4)
H4	△228	△0.1 (2.9)	13,512	8.7 (9.8)	13,740	8.9 (6.9)	70	5.2 (4.5)	35	2.6 (2.4)	600	42.5 (38.9)	116	8.5 (8.1)
H8	△596	△0.4 (2.5)	13,351	8.7 (9.7)	13,947	9.1 (7.2)	52	3.9 (3.8)	23	1.7 (2.0)	420	30.5 (31.7)	78	5.8 (6.7)
H12	△2,005	△1.3 (1.8)	13,121	8.7 (9.5)	15,126	10.0 (7.7)	44	3.4 (3.2)	23	1.8 (1.8)	463	34.1 (31.2)	71	5.4 (5.8)
H16	△3,682	△2.5 (0.7)	12,020	8.1 (8.8)	15,702	10.5 (8.2)	36	3 (2.8)	14	1.2 (1.5)	385	31.0 (30.0)	58	4.8 (5.0)
H23	△6,662	△4.7 (△1.6)	11,222	7.8 (8.3)	17,884	12.5 (9.9)	24	2.1 (2.3)	13	1.2 (1.1)	263	22.9 (23.9)	49	4.4 (4.1)
H28	△8,522	△6.2 (△2.6)	9,844	7.1 (7.8)	18,366	13.3 (10.5)	24	2.4 (2.0)	6	0.6 (0.9)	195	19.4 (21.0)	43	4.4 (3.6)

資料：「人口動態調査」厚生労働省

※ ()内は全国数値

自然増加率・出生率・死亡率は人口千対、乳児死亡率・新生児死亡率は出生千対、死産率・周産期死亡率は出産千対

2 死 因

全国では、平成28年(2016年)の主要な死因は第1位が「悪性新生物」、以下2位「心疾患」、3位「肺炎」、4位「脳血管疾患」となっています。また、高齢化の影響で「老衰」の割合が高くなっています。

本県の平成28年(2016年)の主要な死因も、第1位が「悪性新生物」、以下2位「心疾患」、3位「肺炎」、4位「脳血管疾患」となっていますが、死亡率(人口10万対)は、悪性新生物355(全国298.3)、心疾患220.0(全国158.4)、肺炎151.5(全国95.4)、脳血管疾患115.6(全国87.4)となっており、全国の死亡率を上回っています。

なお、悪性新生物や心疾患による死亡率は上昇傾向が続いていますが、近年、脳血管疾患による死亡率は低下傾向にあります。

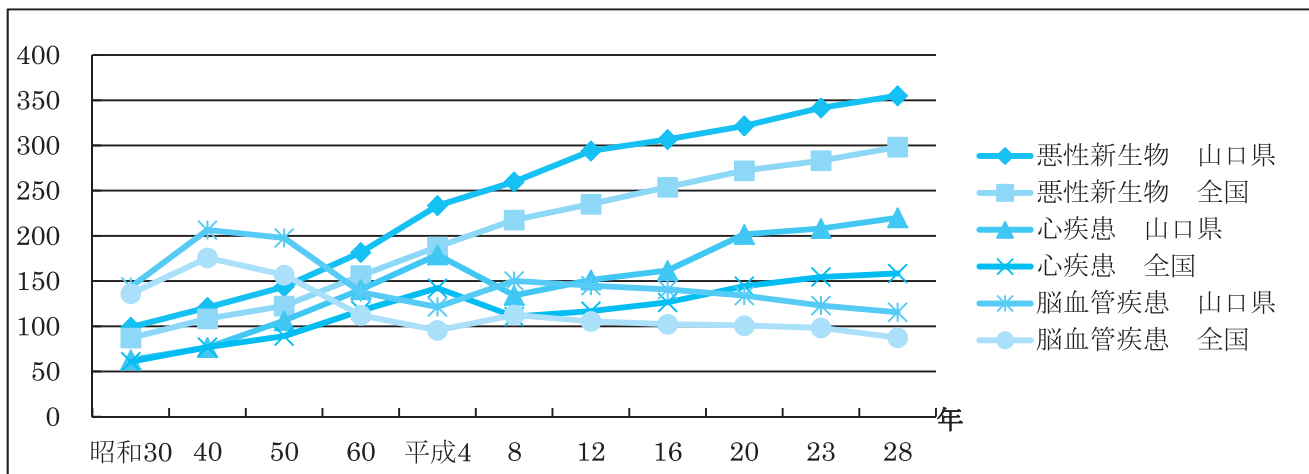
二次保健医療圏別にみると、平成 27 年（2015 年）は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患ともに、萩、長門、柳井医療圏の順で死亡率が高くなっています。

表 2 平成 28 年死因順位

	全 国	(%)	山口県	(%)
1位	悪性新生物	28.5	悪性新生物	26.7
2位	心 疾 患	15.1	心 疾 患	16.5
3位	肺 炎	9.1	肺 炎	11.4
4位	脳血管疾患	8.4	脳血管疾患	8.7
5位	老 衰	7.1	老 衰	6.5
6位	不慮の事故	2.9	不慮の事故	2.7
7位	腎 不 全	1.9	腎 不 全	2.3
8位	自 殺	1.6	大動脈瘤及び解離	1.5
9位	大動脈瘤及び解離	1.4	自 殺	1.2
10位	肝 疾 患	1.2	慢性閉塞性肺疾患	1.2

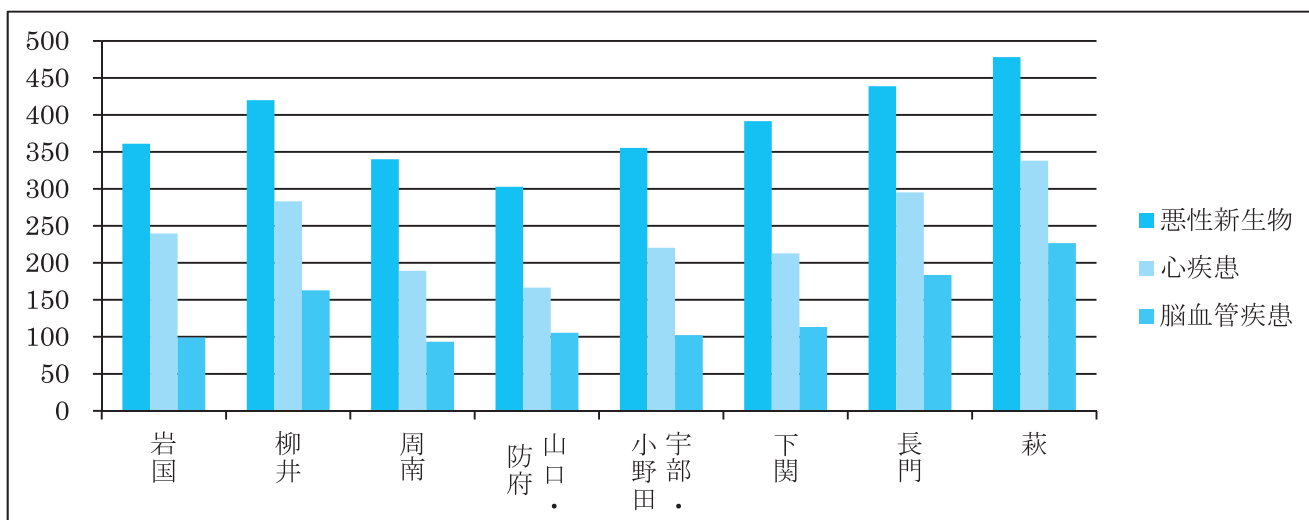
資料：「人口動態調査」厚生労働省

図 1 3大死因別にみた死亡率の推移（人口10万対）



資料：「人口動態調査」厚生労働省

図 2 3大死因の圏域別死亡率（平成 27 年）



※「保健統計年報」山口県より算出

第4章 住民の受療状況

1 患者数

(1) 入院患者数

平成26年(2014年)10月現在、県内の病院及び診療所に入院している患者数は、約24,400人(注)です。

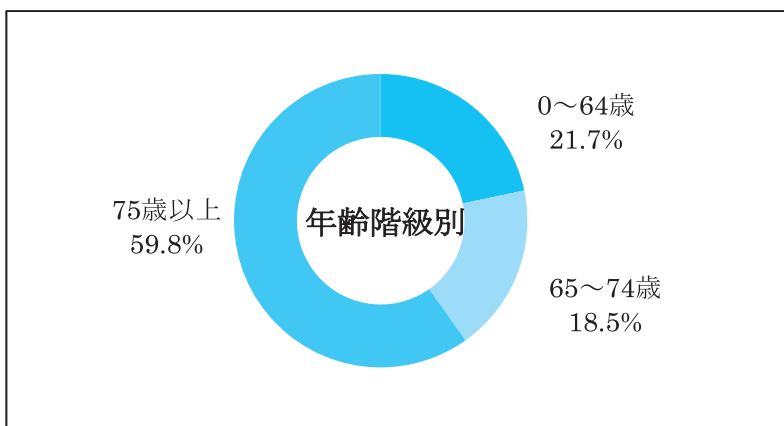
年齢構成をみると、65歳以上が約19,100人(75歳以上では約14,600人)で、入院患者全体に占める割合は78.3%(75歳以上では59.8%)です(図1)。

全国の入院患者の年齢構成は、65歳以上が71.1%(75歳以上では50.8%)であり、山口県は全国平均より高齢者の比率が高くなっていることがうかがえます。

また、本県の病院入院患者について病床種類別の構成をみると、一般病床約9,700人(入院患者全体の39.8%)、療養病床約9,200人(同37.7%)、精神病床約5,500人(同22.5%)、結核病床0人(同0.0%)、感染症病床0人(同0.0%)となっています。

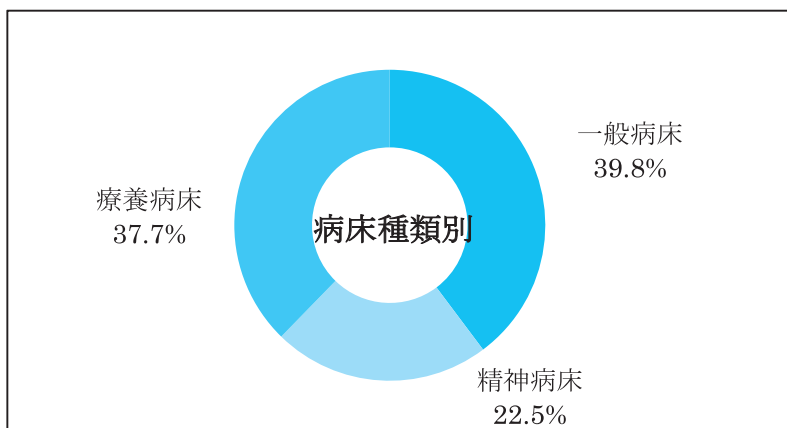
(注)「平成26年(2014年)患者調査」厚生労働省

図1 年齢3区分別入院患者割合



資料：「平成26年患者調査」厚生労働省

図2 病床種類別入院患者割合



資料：「平成26年患者調査」厚生労働省

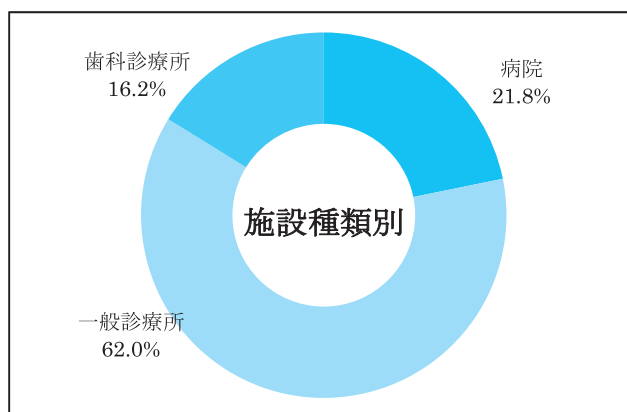
(2) 外来患者数

「平成 26 年（2014 年）患者調査」によれば、調査日当日に、本県の医療施設を受療した外来患者数は約 91,800 人で、受療率（人口 10 万人に対する患者数）は外来 6,502 となっています。これは県民 15.4 人に 1 人が外来受療したことを意味し、全国平均（17.6 人に 1 人、受療率 5,696）より多くなっています（全国 8 位）。

そして、山口県内に住所を持っている外来患者が受療した施設を種類別にみると、病院での受療が 21.8%、一般診療所での受療が 62.0%、歯科診療所での受療が 16.2% となっています。

また、山口県内に住所を持っている患者で、県外の医療施設を外来受療している推計人数は約 1,300 人となっています。

図 3 施設種類別外来患者割合



資料：「平成 26 年患者調査」厚生労働省

2 患者の受療動向

各二次保健医療圏別の寄与率（注 1）は、表 1 のようになっています。

特に柳井保健医療圏では 7 割を切っており、他の保健医療圏から入院患者が多く流入しているといえます。

表 1 寄与率

保健医療圏	岩国	柳井	周南	山口・防府	宇部・小野田	下関	長門	萩
寄与率 (%)	89.2	63.9	87.6	86.1	84.4	94.0	89.3	94.3

資料：「平成 26 年患者調査」厚生労働省

また、各二次保健医療圏別で地元医療機関への完結率（注 2）についてみると、表 2 のようになっています。

特に岩国及び萩の値が低く、他の保健医療圏への入院依存が高いといえます。

逆に、宇部・小野田及び下関では 9 割を超えており、地元患者が地元医療機関に入院している状況がうかがえます。

（注 1）二次医療圏内の医療機関に受療した患者のうち二次医療圏内に居住する患者数 ÷ 二次医療圏内の医療機関に受療した患者の総数

（注 2）二次医療圏内に居住する患者のうち二次医療圏内で受療した患者数 ÷ 二次医療圏内に居住する患者の総数

表 2 完結率

保健医療圏	岩 国	柳 井	周 南	山口・ 防 府	宇部・ 小野田	下 関	長 門	萩
完 結 率 (%)	74.9	78.9	82.1	88.7	90.4	93.5	84.9	75.3

資料：「平成 26 年患者調査」厚生労働省

また、「平成 26 年（2014 年）患者調査」によれば、山口県内に住所をもっている患者で、県外の医療施設に入院している推計人数は約 900 人となっています。

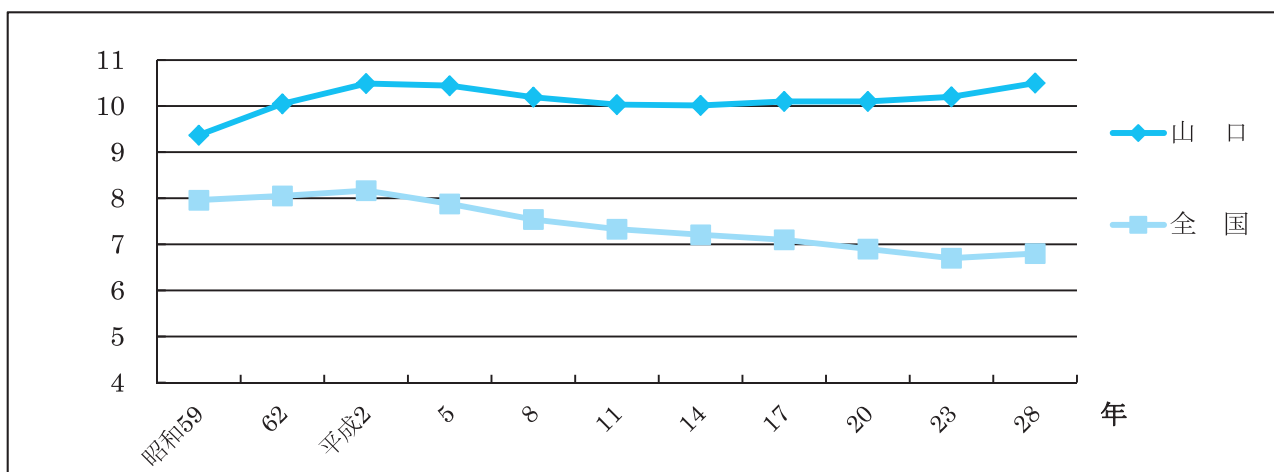
第 5 章 医療提供施設の状況

1 病院数・病床数

平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在、県内には 147 の病院があり、病院の病床数は 26,842 床となっています。

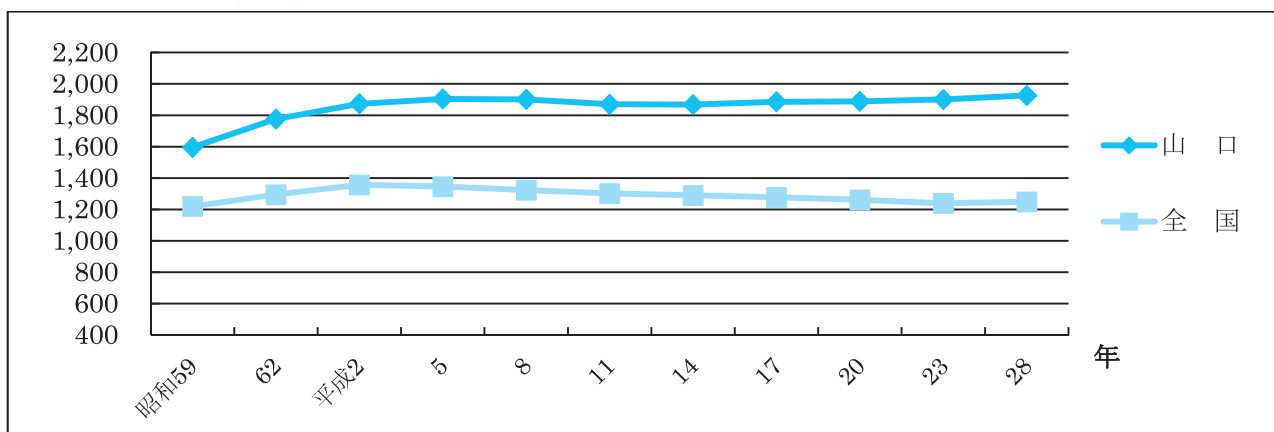
人口 10 万対では、病院数は 10.5、病床数は 1,925.7 となっており、いずれも全国平均（病院数 6.8、病床数 1,248.6）を大きく上回っています。

図 1 病院数の推移（人口 10 万対）



資料：「医療施設調査」厚生労働省

図 2 病院の病床数の推移（人口 10 万対）



資料：「医療施設調査」厚生労働省

また、標榜している診療科目ごとに病院の数をみると、内科標榜が130病院と最も多く、次いでリハビリテーション科87病院、整形外科85病院、外科78病院の順となっています（平成28年（2016年）10月1日）。

表1 標榜診療科目別病院数（重複計上 平成28年10月1日現在）

診療科目	病院数	診療科目	病院数
内科	130	肛門外科	20
呼吸器内科	43	脳神経外科	48
循環器内科	67	整形外科	85
消化器内科（胃腸内科）	67	形成外科	10
腎臓内科	12	美容外科	1
神経内科	53	眼科	37
糖尿病内科（代謝内科）	15	耳鼻いんこう科	32
血液内科	13	小児外科	8
皮膚科	44	産婦人科	22
アレルギー科	9	産科	2
リウマチ科	21	婦人科	6
感染症内科	1	リハビリテーション科	87
小児科	41	放射線科	64
精神科	51	麻酔科	39
心療内科	9	病理診断科	9
外科	78	臨床検査科	5
呼吸器外科	12	救急科	5
心臓血管外科	13	歯科	30
乳腺外科	14	矯正歯科	3
気管食道外科	1	小児歯科	3
消化器外科（胃腸外科）	24	歯科口腔外科	14
泌尿器科	45		

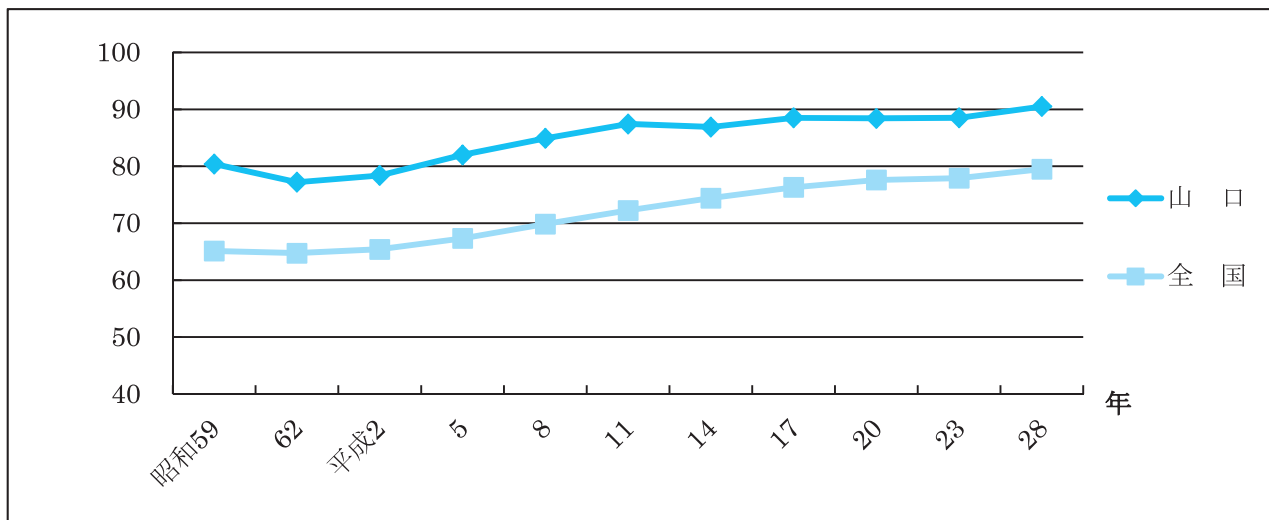
資料：「医療施設調査」厚生労働省

2 一般診療所・病床数

平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在の県内の一般診療所数は 1,283 施設であり、病床数は 1,889 床となっています。

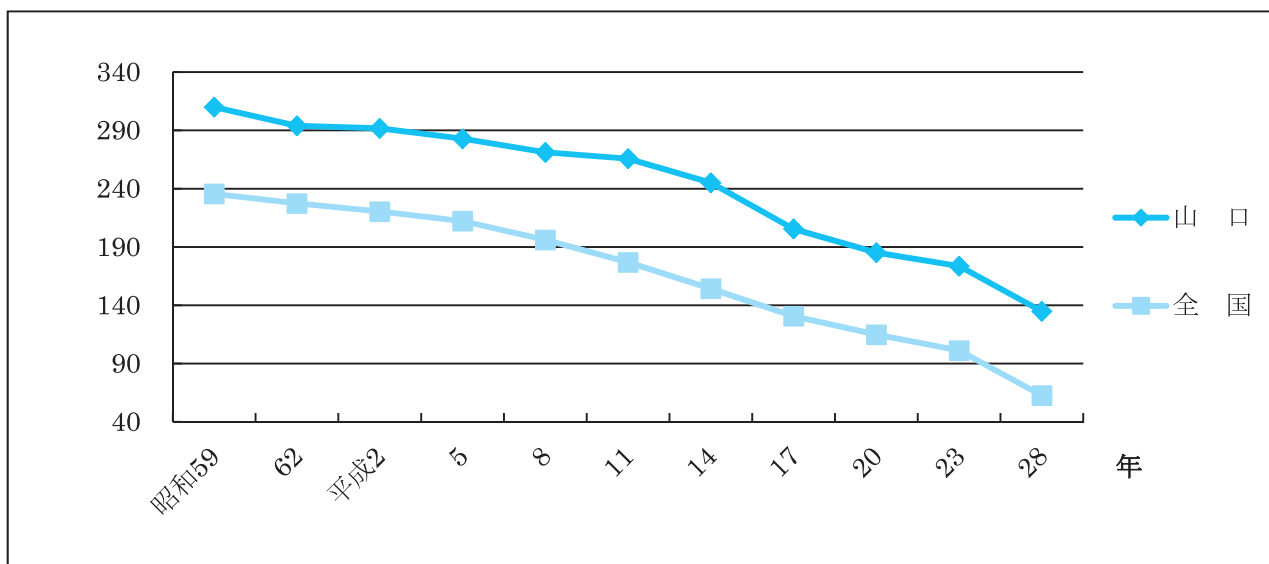
人口 10 万対では、一般診療所は 92.0、病床数は 135.5 となっており、いずれも全国平均（一般診療所数 79.5、病床数 62.6）を上回っています。

図 3 一般診療所数の推移（人口 10 万対）



資料：「医療施設調査」厚生労働省

図 4 一般診療所数の病床数の推移（人口 10 万対）



資料：「医療施設調査」厚生労働省

標榜している診療科目ごとに一般診療所の数をみると、内科を標榜する一般診療所が最も多く（810）、以下、消化器内科（264）、リハビリテーション科（232）、外科（225）、循環器内科（206）、小児科（202）の順になっています（平成 26 年（2014 年）10 月 1 日）。

表 2 標榜診療科目別一般診療所（重複計上 平成 26 年 10 月 1 日現在）

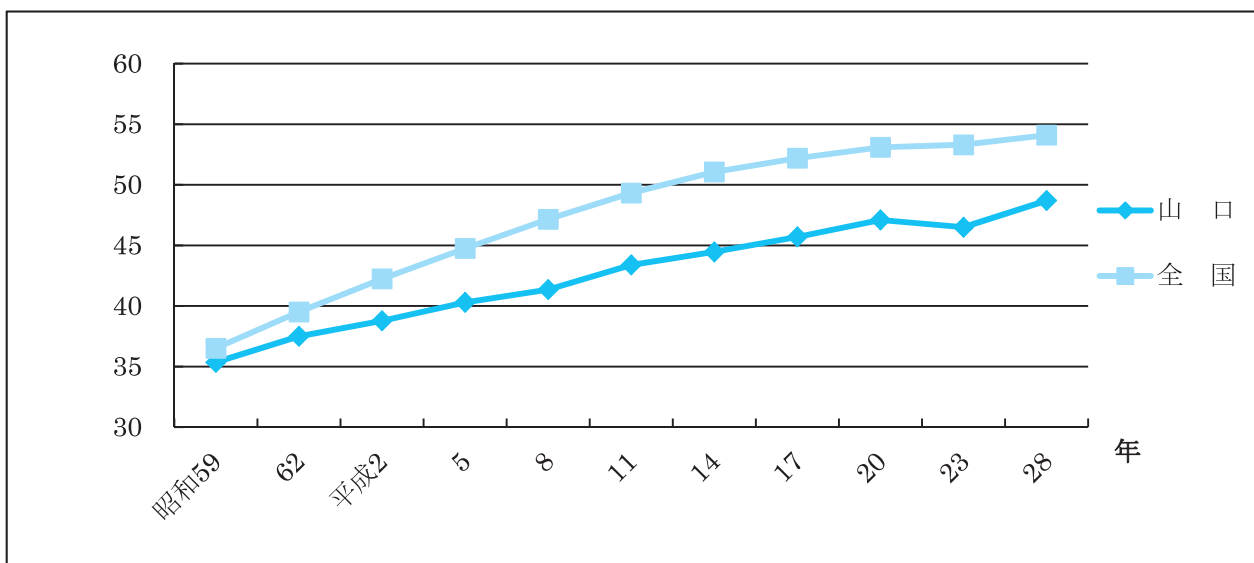
診療科目	診療所数	診療科目	診療所数
内科	810	消化器外科（胃腸外科）	22
呼吸器内科	136	泌尿器科	42
循環器内科	206	肛門外科	51
消化器内科（胃腸内科）	264	脳神経外科	32
腎臓内科	13	整形外科	159
神経内科	45	形成外科	15
糖尿病内科（代謝内科）	26	美容外科	7
血液内科	6	眼科	85
皮膚科	97	耳鼻いんこう科	66
アレルギー科	72	小児外科	2
リウマチ科	67	産婦人科	33
感染症内科	4	産科	4
小児科	202	婦人科	13
精神科	73	リハビリテーション科	232
心療内科	63	放射線科	96
外科	225	麻酔科	53
呼吸器外科	3	歯科	18
心臓血管外科	3	小児歯科	1
乳腺外科	5	歯科口腔外科	2
気管食道外科	5		

資料：「医療施設調査」厚生労働省

3 歯科診療所数

平成 28 年(2016 年)10 月 1 日現在の県内の歯科診療所数は 679 施設となっています。人口 10 万対では 48.7 で、全国平均 54.1 を下回っています。

図 5 歯科診療所数の推移（人口 10 万対）



資料：「医療施設調査」厚生労働省

第6章 各保健医療圏の状況

岩国保健医療圏



1 地域の特性

本圏域は、岩国市、和木町の1市1町で構成されており、3つの有人離島を有し、面積は、県全体の14.5%を占めています。

地理的には、東部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進み、交通アクセスにも難があります。

圏域の人口は、県全体の10.2%を占め、平成23年(2011年)に比べ、平成28年(2016年)の推計人口では、7,383人減少しています。

高齢化率(65歳以上人口の割合)は、県平均を1.2ポイント上回っており、圏域別では4番目に高くなっています。

出生率(人口千対)は、県平均を0.1ポイント上回っており、圏域別では3番目に高くなっています。

死亡率(人口千対)は、県平均を0.1ポイント上回っており、圏域別では5番目に高くなっています。

主要疾患死亡率については、がんは2.5ポイント、心疾患は26.5ポイント県平均を上回っていますが、脳血管疾患は14.4ポイント県平均を下回っています。

2 医療提供体制

平成23年(2011年)と比べ、病院数、歯科診療所数は変わっていませんが、一般診療所が5増、薬局が7減となっています。

また、人口10万に対する施設数を見ると病院数は県平均を上回りますが、診療所数や病床数は県平均を下回っています。

表1 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		1市1町	13市6町
面 積		884.3km ²	6,112.34km ²
人 口		141,509人	1,393,904人
構 成 等	0~14歳	16,873人	167,352人
	15~64歳	76,581人	768,951人
	65歳以上	48,055人	457,601人
	高齢化率	34.0%	32.8%

資料 面積：「平成28年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成28年10月1日現在）

表2 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	7.2	7.1
死亡率（人口千対）	13.4	13.3
周産期死亡率（出産千対）	3.9	4.4
乳児死亡率（出生千対）	2.0	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	361.1	358.6
心疾患（高血圧を除く）	239.6	213.1
脳血管疾患	98.9	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成28年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成27年保健統計年報より算出

表3 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	17	12.0	129	91.2	12	68	48.1	90	63.6
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成28年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成29年4月1日現在）

表4 病床数

	病院							一般診療所			
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	2,347	1,658.6	1,068	754.7	754	532.8	525	0	0	149	105.3
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成28年医療施設調査」厚生労働省

柳井保健医療圏



1 地域の特徴

本圏域は、柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町の1市4町から構成されており、9つの有人離島を有し、面積は、県全体の6.5%を占めています。

地理的には県東南部に位置する瀬戸内海沿岸地域に位置し、豊かな自然及び温暖な気候に恵まれています。郡部は過疎化が進み、離島や半島では交通アクセスが不便な状況にあります。

圏域の人口は、県全体の5.7%を占め、平成23年（2011年）に比べ、平成28年（2016年）の推計人口では、5,883人減少しています。

高齢化率（65歳以上人口の割合）は県平均を8.4%上回っており、圏域別では最も高くなっています。

出生率（人口千対）は、県平均を2.2ポイント下回っており、圏域別では最も低くなっています。

死亡率（人口千対）は、県平均を4.9ポイント上回っており、圏域別では最も高くなっています。

主要疾患死亡率については、がんは61.2ポイント、心疾患は70.1ポイント、脳血管疾患は49.6ポイントいずれも県平均を上回っています。

2 医療提供体制

平成23年（2011年）と比べ、病院数は変わっていませんが、一般診療所が1減、歯科診療所が1増、薬局が1増となっています。

また、人口10万に対する施設数を見ると病院数や病床数は県平均を上回りますが、一般診療所数は県平均を下回っています。

なかでも、人口10万に対する療養病床数は県平均を大きく上回っています。

表5 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		1市4町	13市6町
面 積		397.83km ²	6,112.34km ²
人 口		79,802人	1,393,904人
構 成 等	0～14歳	7,953人	167,352人
	15～64歳	38,985人	768,951人
	65歳以上	32,864人	457,601人
	高齢化率	41.2%	32.8%

資料 面積：「平成28年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成28年10月1日現在）

表6 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	4.9	7.1
死亡率（人口千対）	18.2	13.3
周産期死亡率（出産千対）	5.1	4.4
乳児死亡率（出生千対）	0.0	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	419.8	358.6
心疾患（高血圧を除く）	283.2	213.1
脳血管疾患	162.9	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成28年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成27年保健統計年報より算出

表7 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	9	11.3	72	90.2	8	38	47.6	45	56.4
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成28年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成29年4月1日現在）

表8 病床数

	病院								一般診療所		
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	2,350	2,944.8	872	1,092.7	1,048	1,313.3	430	0	0	125	156.6
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成28年医療施設調査」厚生労働省

周南保健医療圏



1 地域の特徴

本圏域は、下松市、光市、周南市の3市で構成されており、2つの有人離島を有し、面積は、県全体の13.7%を占めています。

地理的には、瀬戸内海沿岸部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進んでいます。

圏域の人口は、県全体の18.0%を占め、平成23年(2011年)に比べ、平成28年(2016年)の推計人口では、5,915人減少しています。

高齢化率(65歳以上人口の割合)は、県平均を1.2ポイント下回っており、圏域別では2番目に低くなっています。

出生率(人口千対)は、県平均を0.5ポイント上回っており、圏域別では2番目に高くなっています。

死亡率(人口千対)は、県平均を1.0ポイント下回っており、圏域別では2番目に低くなっています。

主要疾患死亡率については、がんは18.6ポイント、心疾患は23.8ポイント、脳血管疾患は20.0ポイントいずれも県平均を下回っています。

2 医療提供体制

平成23年(2011年)と比べ、病院が1増、一般診療所が2増、歯科診療所が1減、薬局が1増となっています。

また、人口10万に対する施設数を見ると病院数、一般診療所数、病床数のいずれも県平均を下回っています。

表9 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		3市	13市6町
面 積		837.77km ²	6,112.34km ²
人 口		250,873人	1,393,904人
構 成 等	0~14歳	31,779人	167,352人
	15~64歳	139,773人	768,951人
	65歳以上	79,321人	457,601人
	高齢化率	31.6%	32.8%

資料 面積：「平成28年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成28年10月1日現在）

表10 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	7.6	7.1
死亡率（人口千対）	12.3	13.3
周産期死亡率（出産千対）	5.3	4.4
乳児死亡率（出生千対）	2.1	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	340.0	358.6
心疾患（高血圧を除く）	189.3	213.1
脳血管疾患	93.3	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成28年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成27年保健統計年報より算出

表11 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	24	9.6	218	86.9	19	113	45.0	148	59.0
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成28年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成29年4月1日現在）

表12 病床数

	病院							一般診療所			
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	3,696	1,473.7	1,762	702.3	1,313	523.4	609	12	0	290	115.6
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成28年医療施設調査」厚生労働省

山口・防府保健医療圏



1 地域の特徴

本圏域は、山口市、防府市の2市で構成されており、1つの有人離島を有し、面積は、県全体の19.8%を占め、県下最大の面積となっています。

地理的には、各地域に市街地が形成されていますが、北部は山間地が多く、過疎化が進んでいます。

圏域の人口は、県全体の22.4%を占め県下最大となっていますが、平成23年（2011年）に比べ、平成28年（2016年）の推計人口では、119人減少しています。

高齢化率（65歳以上人口の割合）は、県平均を4.3ポイント下回っており、圏域別では最も低くなっています。

出生率（人口千対）は、県平均を0.9ポイント上回っており、圏域別では最も高くなっています。

死亡率（人口千対）は、県平均を1.7ポイント下回っており、圏域別では最も低くなっています。

主要疾患死亡率については、がんは55.7ポイント、心疾患は46.5ポイント、脳血管疾患は7.8ポイントいずれも県平均を下回っています。

2 医療提供体制

平成23年（2011年）と比べ、病院数は変わっていませんが、一般診療所が1減、歯科診療所が12増、薬局が3増となっています。

また、人口10万に対する施設数を見ると病院数、一般診療所数、病床数のいずれも県平均を下回っています。

表 13 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		2市	13市6町
面 積		1,212.6km ²	6,112.34km ²
人 口		312,689人	1,393,904人
構 成 等	0～14歳	41,058人	167,352人
	15～64歳	182,420人	768,951人
	65歳以上	89,211人	457,601人
	高齢化率	28.5%	32.8%

資料 面積：「平成 28 年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成 28 年 10 月 1 日現在）

表 14 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	8.0	7.1
死亡率（人口千対）	11.6	13.3
周産期死亡率（出産千対）	5.2	4.4
乳児死亡率（出生千対）	2.4	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	302.9	358.6
心疾患（高血圧を除く）	166.6	213.1
脳血管疾患	105.5	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成 28 年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成 27 年保健統計年報より算出

表 15 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	27	8.6	256	81.9	26	147	47.0	147	47.0
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成 29 年 4 月 1 日現在）

表 16 病床数

	病院							一般診療所			
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	4,794	1,533.2	2,155	689.2	1,454	465.0	1,171	14	0	374	119.6
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

宇部・小野田保健医療圏



1 地域の特徴

本圏域は、宇部市、美祢市、山陽小野田市の3市で構成されており、面積は、県全体の14.6%を占めています。

地理的には、瀬戸内海沿岸部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進んでいます。

圏域の人口は、県全体の18.4%を占め、平成23年(2011年)に比べ、平成28年(2016年)の推計人口では、9,089人減少しています。

高齢化率(65歳以上人口の割合)は、県平均を0.5ポイント下回っており、圏域別では3番目に低くなっています。

出生率(人口千対)は、県平均を0.1ポイント上回っており、圏域別では3番目に高くなっています。

死亡率(人口千対)は、県平均を0.9ポイント下回っており、圏域別では3番目に低くなっています。

主要疾患死亡率については、心疾患は7.3ポイント県平均を上回っていますが、がんは3.3ポイント、脳血管疾患は11.1ポイント県平均を下回っています。

2 医療提供体制

平成23年(2011年)と比べ、病院数は変わっていませんが、一般診療所が6減、歯科診療所が2減、薬局が6増となっています。

また、人口10万に対する施設数を見ると病院数、一般診療所数、病院の病床数は県平均を上回りますが、一般診療所の病床数は県平均を下回っています。

表 17 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		3市	13市6町
面 積		892.38km ²	6,112.34km ²
人 口		256,389人	1,393,904人
構 成 等	0～14歳	30,678人	167,352人
	15～64歳	142,970人	768,951人
	65歳以上	82,741人	457,601人
	高齢化率	32.3%	32.8%

資料 面積：「平成 28 年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成 28 年 10 月 1 日現在）

表 18 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	7.2	7.1
死亡率（人口千対）	12.4	13.3
周産期死亡率（出産千対）	3.8	4.4
乳児死亡率（出生千対）	4.3	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	355.3	358.6
心疾患（高血圧を除く）	220.4	213.1
脳血管疾患	102.2	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成 28 年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成 27 年保健統計年報より算出

表 19 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	30	11.7	247	96.3	15	131	51.1	161	62.8
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成 29 年 4 月 1 日現在）

表 20 病床数

	病院							一般診療所			
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	6,087	2,374.1	2,597	1,012.9	1,891	737.6	1,569	0	30	207	80.7
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

下関保健医療圏



1 地域の特徴

本圏域は、下関市1市で構成されており、2つの有人離島を有し、面積は、県全体の11.7%を占めています。

地理的には、南部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進んで交通アクセスに難があります。

圏域の人口は、県全体の19.1%を占め、平成23年(2011年)に比べ、平成28年(2016年)の推計人口では、12,935人減少しています。

高齢化率(65歳以上人口の割合)は、県平均を1.0ポイント上回っており、圏域別では5番目に高くなっています。

出生率(人口千対)は、県平均を0.5ポイント下回っており、圏域別では4番目に低くなっています。

死亡率(人口千対)は、県平均を0.2ポイント上回っており、圏域別では4番目に高くなっています。

主要疾患死亡率については、がんは32.8ポイント県平均を上回っていますが、心疾患は0.4ポイント県平均を下回っており、脳血管疾患は県平均と同程度となっています。

2 医療提供体制

平成23年(2011年)と比べ、歯科診療所数は変わっていませんが、病院が1減、一般診療所が5増、薬局が3増となっています。

また、人口10万に対する施設数を見ると病院数は県平均をやや下回っていますが、一般診療所数や病床数は県平均を上回っています。

なかでも人口10万に対する療養病床数や一般診療所の病床数は県平均を大きく上回っています。

表 21 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		1市	13市6町
面 積		715.93km ²	6,112.34km ²
人 口		265,684人	1,393,904人
構 成 等	0～14歳	30,536人	167,352人
	15～64歳	145,408人	768,951人
	65歳以上	89,740人	457,601人
	高齢化率	33.8%	32.8%

資料 面積：「平成 28 年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成 28 年 10 月 1 日現在）

表 22 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	6.6	7.1
死亡率（人口千対）	13.5	13.3
周産期死亡率（出産千対）	2.9	4.4
乳児死亡率（出生千対）	1.1	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	391.4	358.6
心疾患（高血圧を除く）	212.7	213.1
脳血管疾患	113.3	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成 28 年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成 27 年保健統計年報より算出

表 23 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	27	10.2	280	105.4	42	140	52.7	168	63.2
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成 29 年 4 月 1 日現在）

表 24 病床数

	病院							一般診療所			
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	5,585	2,102.1	2,203	829.2	2,236	841.6	1,110	6	30	641	241.3
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

長門保健医療圏



1 地域の特徴

本圏域は、長門市1市で構成されており、面積は、県全体の5.8%を占めています。地理的には、北部は日本海に面して広い平野部を有し、南部は緑豊かな山間部ですが、全体的に過疎化が進んでいます。

圏域の人口は、県全体の2.5%を占め、平成23年(2011年)に比べ、平成28年(2016年)の推計人口では、2,758人減少しています。

高齢化率(65歳以上人口の割合)は、県平均を8.1ポイント上回っており、圏域別では3番目に高くなっています。

出生率(人口千対)は、県平均を2.2ポイント下回っており、圏域別では最も低くなっています。

死亡率(人口千対)は、県平均を4.2ポイント上回っており、圏域別では2番目に高くなっています。

主要疾患死亡率については、がんは80.0ポイント、心疾患は82.2ポイント、脳血管疾患は70.2ポイントいずれも県平均を上回っています。

2 医療提供体制

平成23年(2011年)と比べ、病院数は変わっていませんが、一般診療所が1減、歯科診療所が1減、薬局が3減となっています。

また、人口10万に対する施設数を見ると病院数、病床数は県平均を上回りますが、一般診療所数は県平均を下回っています。

なかでも人口10万に対する一般病床数は県平均を大きく上回っています。

表 25 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		1市	13市6町
面 積		357.29km ²	6,112.34km ²
人 口		34,882人	1,393,904人
構 成 等	0～14歳	3,456人	167,352人
	15～64歳	17,158人	768,951人
	65歳以上	14,268人	457,601人
	高齢化率	40.9%	32.8%

資料 面積：「平成 28 年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成 28 年 10 月 1 日現在）

表 26 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	4.9	7.1
死亡率（人口千対）	17.5	13.3
周産期死亡率（出産千対）	0.0	4.4
乳児死亡率（出生千対）	0.0	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	438.6	358.6
心疾患（高血圧を除く）	295.3	213.1
脳血管疾患	183.5	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成 28 年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成 27 年保健統計年報より算出

表 27 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	6	17.2	27	77.4	4	16	45.9	22	63.1
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成 29 年 4 月 1 日現在）

表 28 病床数

	病院								一般診療所		
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	933	2,674.7	364	1,043.5	243	696.6	318	8	0	54	154.8
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

表 29 圏域の概要

		圏 域	全 県
構 成 市 町 数		1市1町	13市6町
面 積		814.26km ²	6,112.34km ²
人 口		52,076人	1,393,904人
構 成 等	0～14歳	5,019人	167,352人
	15～64歳	25,656人	768,951人
	65歳以上	21,401人	457,601人
	高齢化率	41.1%	32.8%

資料 面積：「平成 28 年全国都道府県市区町村別面積調べ」国土地理院

人口：山口県市町年齢別推計人口（平成 28 年 10 月 1 日現在）

表 30 出生率・死亡率

	圏 域	全 県
出生率（人口千対）	5.2	7.1
死亡率（人口千対）	17.5	13.3
周産期死亡率（出産千対）	7.4	4.4
乳児死亡率（出生千対）	7.4	2.4
主要疾患死亡率（人口10万対）		
が ん	478.1	358.6
心疾患（高血圧を除く）	338.0	213.1
脳血管疾患	226.6	113.3

※出生率、死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率：「平成 28 年人口動態調査」厚生労働省より算出

主要疾患死亡率：平成 27 年保健統計年報より算出

表 31 医療機関・薬局数

	病院		一般診療所			歯科診療所		薬局	
	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対	有床施設数	施設数	人口10万対	施設数	人口10万対
圏 域	7	13.4	54	103.7	5	26	49.9	30	57.6
全 県	147	10.5	1,283	92.0	133	679	48.7	811	58.2

資料 病院、一般診療所、歯科診療所：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省

薬局：薬務課調査（平成 29 年 4 月 1 日現在）

表 32 病床数

	病院							一般診療所			
	病床数計	人口10万対	一般	人口10万対	療養	人口10万対	精神	感染症	結核	病床数	人口10万対
圏 域	1,050	2,016.3	331	635.6	522	1,002.4	197	0	0	49	94.1
全 県	26,842	1,925.7	11,352	814.4	9,461	678.7	5,929	40	60	1,889	135.5

資料：「平成 28 年医療施設調査」厚生労働省